

ほけんだより 7月号

令和5年6月30日
 椋山女学園大学附属
 椋山こども園

天候が不安定な日や気温差もあり、6月は発熱などで体調を崩す子が多くいました。ここ数年は夏に流行する感染症が、園では大きく流行らなかった分、今年度は感染者が多い傾向にあります。今月から、水あそびも始まり子ども達にとって、夏ならではの楽しい活動もあります。園と家庭で連携をして元気に夏を乗り切っていきましょう。



水いぼ Q & A



Q. 水いぼって何？

A. 伝染性軟属腫ウイルスが原因でできる粟粒大の水いぼで、おなかやひじ、わきの下などにできて広がります。

Q. うつるの？

A. いぼがつぶれて中の液が付くとうつります。体の接触、タオルなどの共有でうつりやすいので注意が必要です。

Q. 登園やプールは？

A. 登園の制限はなく、プールも入れます。肌が出ている部分に水いぼがある場合、ラッシュガードで保護できるようにしてください。傷が化膿している場合は、ガーゼで覆い、プールも控えましょう。

Q. どうやって治すの？

A. そのままでも半年から一年半ほどで治ります。アトピー性皮膚炎の子や、かゆくてかきこわしてしまふような場合は医師に相談しましょう。



かゆみのある湿しんは「とびひ」かも

虫刺されや湿しんなどで傷ついた肌を汚れたつめでひっかくと、傷口に細菌が感染して「とびひ(伝染性膿痂疹)」になります。うみをもったような水ぼうがで、強いかゆみが出ます。かゆいからといってひっかくと大変！水ぼうがが破れて中の液が付いた所に、とびひがどんどん広がってしまうのです。水ぼうがを見つけたら、つめでひっかかないようにガーゼで覆い、受診しましょう。

ぼくたちのつめも、忘れずに短く切つてね



「ヘルパンギーナ」に注意

のどの奥に水ぼうがができる「ヘルパンギーナ」がはやっています。夏かぜの一種でそれほど心配はありませんが、のどの痛みが強く、食事や水分がとりにくくなるのが特徴。高熱が3日以上続いたり、水分をとれないようなときは急ぎ病院へ。

症状

- 38～40℃の高熱が2～3日続く
- のどの奥に白いぶつぶつができる
- のどの痛み
- 食欲不振など

ケア

- かぜと同じケア
- こまめな水分補給
- 薄味のスープや豆腐、プリンなど、のどごしと消化のよい食事



熱が下がり、喉の痛みがなく、食事がとれていれば登園可能です。

こども園 6月感染症の流行状況

ヘルパンギーナ：7名

アデノウイルス：1名

溶連菌感染症：1名

RSウイルス：1名